

令和 8(2026)年度

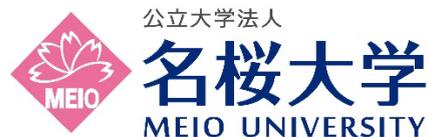
名桜大学大学院国際文化研究科
国際地域文化専攻（博士後期課程）

学 生 募 集 要 項

〔一 般 選 拔〕

〔社会人特別選抜〕

〔外国人留学生特別選抜〕



目 次

大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程） アドミッション・ポリシー	1
令和 8(2026)年度大学院国際文化研究科 国際地域文化専攻（博士後期課程）入試日程	3
一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜学生募集要項	4
学費等納入金	17
授業科目の内容等	20
研究指導（博士論文指導）教員一覧	28

諸用紙綴り 添付

【出願資格認定申請書類】

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ① 出願資格認定申請書（様式 1） | ② 出 願 理 由 書（様式 2） |
| ③ 経 歴 書（様式 3） | ④ 研究業績報告書（様式 4） |
| ⑤ 研究経過報告書（様式 5） | |

【出願書類等】

- | | |
|----------------|-------------------|
| ① 研究計画書（様式 6） | ② 日本語力調査書（様式 7） |
| ③ 業績報告書（様式 8） | ④ 受験承諾書（様式 9） |
| ⑤ 相談申請書（様式 10） | ⑥ 入学志願票、受験票、振込依頼書 |
| ⑦ レターパックライト | ⑧ 願書送付用封筒 |

個人情報の取扱について

- (1) 本学が入学選抜を通じて取得した個人情報は、次のとおり利用又は提供しますので、あらかじめご了承ください。
- ① 入学選抜、合格発表及び入学手続、入学前後の教育活動に係る業務で利用します。
- ② 入学手続者及びその保証人等の住所・氏名等につき、学生支援関係業務（健康診断、授業料減免措置、奨学金採用、就職支援、学生保険加入等）、教務関係業務（学籍管理、修学指導、成績管理等）、納付金関係業務（入学金、授業料徴収等）で利用します。
- (2) 出願書類・入学手続書類等の不備等がある場合、その訂正・補完を速やかに行っていただくため、本学を受験されること及び出願書類に不備等があることを、保証人等に通知する場合があります。
- (3) 本学が入学選抜を通じて取得した個人情報は、上記及び個人情報の保護に関する法律第 18 条、第 27 条及び第 28 条に規定されている場合を除き、本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供することはありません。

入学選抜についての問い合わせ先
〒905-8585 沖縄県名護市字為又 1220-1

名桜大学 教務部 入試・広報課

TEL 0980-51-1056 FAX 0980-54-2429

大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）

アドミッション・ポリシー

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）は、入学を希望する人に「求める学生像」で示す能力等を求め、これらを「入学者選抜方針」に基づき評価し、入学者を選抜します。

＜求める学生像＞

- (1) 環太平洋の地域及び文化的課題に関して、課題解決に向けて理論的分析及び評価を行うための修士課程修了程度の専門的知識と研究能力を有していること。
- (2) 高度な外国語運用能力及び総合的判断力を有し、他者との対話を通して現代社会の課題を理解・分析した上で、研究成果を多様な方法で表現する能力を有すること。
- (3) 多様な文化と視点を理解・尊重し、自らの研究成果を明晰に表現する能力を有すること。

＜入学者選抜方針＞

国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）では、「一般選抜」「社会人特別選抜」「外国人留学生特別選抜」により、入学志願者の能力・意欲・適性、修士課程等における学修の成果等を多面的・総合的に評価・判定します。

一 般 選 抜	<p>一般選抜は、書面審査、学力検査(外国語 1 科目選択)及び口述試験により、入学志願者の能力・意欲・適性、修士課程等における学修の成果等を総合的に評価・判定します。</p> <p>書面審査では、修士論文又は研究論文の業績を通して、博士後期課程での研究遂行にあたっての研究能力を総合的に評価します。</p> <p>学力検査(外国語 1 科目選択)では、英語又は選択する地域の言語の問題を出題し、研究に必要な語学力を評価します。</p> <p>口述試験では、出願書類(修士論文又は研究論文及び研究計画書等の内容)を含み、研究遂行にあたっての基礎能力、大学院生(博士後期課程)としての適格性等を評価します。</p>
社 会 人 特 別 選 抜	<p>社会人特別選抜は、書面審査、小論文及び口述試験により、入学志願者の能力・意欲・適性、修士課程等における学修の成果等を総合的に評価・判定します。</p> <p>書面審査は、修士論文又は研究論文の業績を通して、博士後期課程での研究遂行にあたっての研究能力を総合的に評価します。</p> <p>学力検査(外国語 1 科目選択)では、英語又は選択する地域の言語の問題を出題し、研究に必要な語学力を評価します。</p> <p>小論文では、選択する地域や研究分野に関する論述問題を出題し、課題把握の的確性、論拠の妥当性、論旨の一貫性等を評価します。</p> <p>口述試験では、出願書類(修士論文又は研究論文及び研究計画書等の内容)を含み、研究遂行にあたっての基礎能力、大学院生(博士後期課程)としての適格性等を評価します。</p>

<p>外国人留学生 特 別 選 抜</p>	<p>外国人留学生特別選抜は、書面審査、小論文及び口述試験により、入学志願者の能力・意欲・適性、修士課程等における学修の成果等を総合的に評価・判定します。</p> <p>書面審査は、修士論文又は研究論文の業績及び日本語力調査書を通して、博士後期課程での研究遂行にあたっての研究能力等を総合的に評価します。</p> <p>小論文では、選択する地域や研究分野に関する論述問題を出題し、課題把握の的確性、論拠の妥当性、論旨の一貫性等を評価します。</p> <p>口述試験では、出願書類(修士論文又は研究論文及び研究計画書等の内容)を含み、研究遂行にあたっての基礎能力、大学院生(博士後期課程)としての適格性等を評価します。</p> <p>なお、外国人留学生特別選抜への入学志願者には、日本語能力試験 N1 程度の日本語能力を求めます。</p>
---------------------------	--

令和 8(2026)年度 大学院国際文化研究科 国際地域文化専攻（博士後期課程）入試日程

1 期試験〔令和 8(2026)年 4 月入学〕

選抜区分：一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜

出願資格認定申請期間 (該当者のみ)	令和 7(2025)年 7 月 22 日(火)～8 月 1 日(金) (必着) ※出願資格(6)～(8)に該当する者のみ対象。 詳細は 3. 出願資格の認定を確認すること。
出願前相談期間	令和 7(2025)年 8 月 18 日(月)～8 月 29 日(金)
願書受付期間	令和 7(2025)年 9 月 5 日(金)～9 月 12 日(金) (消印有効)
試験日	令和 7(2025)年 10 月 19 日(日) ※追試験(詳細 14 ページ) 令和 7(2025)年 10 月 26 日(日)
試験会場	■本学試験場：名桜大学
合格発表	令和 7(2025)年 11 月 1 日(土) 15 : 00
入学手続期間	令和 7(2025)年 11 月 1 日(土)～11 月 10 日(月)

- 1 期試験で定員に満たない場合には、下記の日程で 2 期試験を実施します。
実施については、12 月初旬に名桜大学ウェブサイト以案内します。

2 期試験〔令和 8(2026)年 4 月入学〕

選抜区分：一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜

出願資格認定申請期間 (該当者のみ)	令和 7(2025)年 11 月 25 日(火)～12 月 5 日(金) (必着) ※出願資格の(6)～(8)に該当する者のみ対象 詳細は 3. 出願資格の認定を確認すること。
出願前相談期間	令和 7(2025)年 12 月 15 日(月)～令和 7(2025)年 12 月 26 日(金)
願書受付期間	令和 8(2026)年 1 月 13 日(火)～1 月 16 日(金) (消印有効)
試験日	令和 8(2026)年 2 月 1 日(日) ※追試験(詳細 14 ページ) 令和 8(2026)年 2 月 8 日(日)
試験会場	■本学試験場：名桜大学
合格発表	令和 8(2026)年 2 月 20 日(金) 15 : 00
入学手続期間	令和 8(2026)年 2 月 20 日(金)～2 月 27 日(金)

一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜 学生募集要項

1. 募集人員

専攻	選抜区分	募集人員
国際地域文化専攻 (博士後期課程)	一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜	2人

※募集人員は、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜の合計数。

2. 出願資格

【一般選抜】

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者、若しくは令和8(2026)年3月までに学位を授与される見込みの者（1年次修了者も含む）
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者、若しくは令和8(2026)年3月までに学位を授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職単位に相当する学位を授与された者、若しくは令和8(2026)年3月までに学位を授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者、若しくは令和8(2026)年3月までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（以下「国際連合大学」という。）の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者、又は令和8(2026)年3月までに授与される見込みの者
- (6) 外国の学校、上記出願資格（4）の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
 - 大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本研究科が当該研究の成果により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
 - 外国において、学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を、我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本研究科が当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
- (8) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者又は令和8(2026)年3月31日までに24歳に達する者

【社会人特別選抜】

一般選抜の出願条件のいずれかの資格を有する者で、本博士後期課程入学までに大学卒業後又は学士の学位取得後4年以上、又は大学院修了後、若しくは修士の学位取得後2年以上の社

会的経験を有する者とし、有職者に限らない。

【外国人留学生特別選抜】

一般選抜の出願条件のいずれかの資格を有する者で、日本国籍を有しない者

3. 出願資格の認定

出願資格(6)～(8)※に該当する者は、出願資格の事前審査を行うので、出願に先立って、下表のとおり必要書類を15ページ記載の出願問い合わせ先へ提出し、出願資格の認定を受けた後、出願してください。※社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜の志願者含む

試験区分	出願資格認定申請期間	出願資格認定結果
1期 試験	令和7(2025)年 7月22日(火)～8月1日(金)(必着)	令和7(2025)年 8月15日(金)
2期 試験	令和7(2025)年 11月25日(火)～12月5日(金)(必着)	令和7(2025)年 12月19日(金)

(1)提出書類

1	出願資格認定申請書(本学所定の用紙を使用)様式1
2	出願理由書(本学所定の用紙を使用)様式2
3	経歴書(本学所定の用紙を使用)様式3
4	最終学校の成績証明書
5	最終学校の卒業(修了)証明書又は在籍証明書
6	研究業績報告書 様式4(本学所定の用紙に、著書、学術論文、研究報告書、卒業論文等の業績の概要をまとめたもの。原著、論文抜刷又はそのコピーを添付すること。)
7	研究経過報告書 様式5(本学所定の用紙に、学校等卒業<修了>後の調査研究状況を詳細に記入したもの。)
8	レターパックライト 「お届け先(To)」に志願者の住所・氏名・郵便番号・電話番号を記入し、願書送付用封筒に同封してください。※ 折り曲げて同封してもかまいません。

(2)認定結果の通知

- 1期試験：令和7(2025)年8月15日(金)に郵送により通知します
- 2期試験：令和7(2025)年12月19日(金)に郵送により通知します

(3)出願資格に疑義のある者は、以下に問い合わせてください。

出願資格認定申請書類提出先

名桜大学 教務部 入試・広報課

〒905-8585 沖縄県名護市字為又 1220-1 TEL.0980-51-1056

窓口受付取扱時間 平日の午前9:00～午後5:00(土曜日、日曜日及び祝日は除く)

4. 希望する研究指導教員との出願前相談

出願者は、出願前に、博士後期課程において研究指導を希望する教員(28ページ)と入学後の研究計画等について相談すること。出願前相談の申込は、電話、若しくはメールにより、入試・広報課で受付けます。その際、氏名、連絡先、希望する研究指導教員、相談希望日(第3希望まで)を申し出てください。

出願前相談期間

1 期試験：令和 7(2025)年 8 月 18 日(月)～ 8 月 29 日(金)

2 期試験：令和 7(2025)年 12 月 15 日(月)～12 月 26 日(金)

※相談日を大学から指定する場合があります。

相談申込先：名城大学 教務部 入試・広報課

TEL: 0980-51-1056

E-mail: nyushisodan@meio-u.ac.jp

5. 出願手続

(1) 出願書類

提出書類	一般選抜	社会人 特別選抜	外国人留学生 特別選抜
①入学志願票、受験票（所定用紙）	●	●	●
②成績証明書	●	●	●※4
③修了・卒業(見込)証明書又は資格認定証	●	●	●※4
④研究計画書（様式 6）※1	●	●	●
⑤修士論文又は研究論文の写し	●	●	●
⑥日本語力調査書（様式 7）			●※5
⑦合格通知等発送用宛名シール	●	●	●
⑧受験票送付用封筒レターパックライト ※2	●	●	●
⑨業績報告書（様式 8）		●	
⑩受験承諾書（様式 9）※3		●	
⑪在留カード又はパスポートの写し			●

※1 志望理由を含め研究テーマについて所定用紙に記入のこと。外国人留学生特別選抜出願者は、英語でも記入可能。

※2 レターパックライトを購入のうえ、「お届け先 (To)」に志願者の住所・氏名・郵便番号・電話番号を記入し、願書送付用封筒に同封してください。（折り曲げて同封してもかまいません。）

※3 在職のまま、本学研究科に入学しようとする者のみ所定の用紙にて提出

※4 成績証明書及び修了・卒業(見込)証明書又は資格認定証は、日本語又は英語で出身校が発行したものを提出すること。

※5 日本語力調査書(様式 7)は、「独立行政法人国際交流基金と公益財団法人日本国際教育支援協会 (JEES) が共催する日本語能力試験 N1 以上の認定結果及び成績に関する証明書」又は「日本留学試験成績に関する証明書 (写し可)」をもって代えることができる。

(2) 入学検定料

金額：30,000 円

支払方法：本学所定の振込依頼書（入学志願票と一連になっています）で、
願書受付期間内に次の取りまとめ銀行へ振り込んでください。

- 琉 球 銀 行 名 護 支 店 （普）0820800
- 沖 縄 銀 行 名 護 支 店 （普）1642587
- 沖 縄 海 邦 銀 行 やんばる支店 （普）0059714
- コ ザ 信 用 金 庫 名 護 支 店 （普）0210579
- 沖 縄 県 農 業 協 同 組 合 名 護 支 店 （普）0030608

(3) 願書受付期間

1 期試験：令和 7(2024)年 9 月 5 日（金）～9 月 12 日（金）（消印有効）

2 期試験：令和 8(2026)年 1 月 13 日（火）～1 月 16 日（金）（消印有効）

(4) 出願書類提出先

名桜大学 教務部 入試・広報課

提出方法：郵送または窓口持参

〒905-8585 沖縄県名護市字為又 1220-1 TEL 0980-51-1056 FAX 0980-54-2429

窓口受付取扱時間 平日の午前 9:00～午後 5:00（土曜日、日曜日及び祝日は除く）

(5) 出願上の諸注意

① 成績証明書、卒業（見込）証明書は厳封のまま提出すること。

② 提出した出願書類は返還しません。また、納入した入学検定料は、次の場合を除き、理由の如何に関わらず返還できません。

ア：出願書類を提出しないまま願書受付期間が終了した場合

イ：書類不備等により出願書類が受理されなかった場合

ウ：誤って入学検定料を二重に支払った場合

※入学検定料返還に係る手続き（返還請求）については、電話にてお問合せください。

※入学検定料返還については、支払われた入学検定料のうち、振込手数料等を差し引いて、返還請求に基づき返還します。

③ 提出書類に虚偽の記載があった場合には、合格発表後においても合格及び入学許可を取り消すことがあります。

(6) 受験及び就学上の支援を要する者の相談

本研究科に入学を志願する者で、受験上特別な措置及び就学上特別な配慮を必要とする場合は、下記の期日までに本学入試・広報課へ連絡してください。

① 相談の時期

1 期試験：令和 7(2025)年 7 月 22 日（火）～ 8 月 1 日（金）

2 期試験：令和 7(2025)年 11 月 25 日（火）～ 12 月 5 日（金）

窓口受付取扱時間 平日の午前 9:00～午後 5:00（土曜日、日曜日及び祝日は除く）

② 相談の方法

別添様式による相談申請書（様式 10）を提出することとし、必要な場合は本学において志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者との面談等を行います。

6. 入学者選抜方法

入学者選抜は、一般選抜、社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜として、外国語、小論文、口述試験及び出願書類の内容を総合的に判定して行います。

令和 8(2026)年度入学者選抜にあたっては、沖縄県居住者は本学試験場での受験を原則とし、沖縄県外の居住者は本学試験場での受験またはオンラインでの受験のいずれかを選択することが可能です。

(1) 一般選抜

試験科目等		配点	備考
書面審査		—	修士論文又は研究論文の業績を通して、博士後期課程での研究遂行にあたっての研究能力を総合的に評価する（点数化しない）
学力 検査	外国語 1 科目	100 点	英語又は選択する地域の言語（ポルトガル語、スペイン語、中国語、韓国語、琉球語など）の問題を出題し、研究に必要な語学力を評価する。（上記言語から 1 科目を選択する） 大学が用意する辞書(書籍版)のみ使用してよい（試験後返却すること）。ただし、外国で受験する場合、別途対応する
口述試験		100 点	個人面接とする。出願書類(修士論文又は研究論文及び研究計画書等の内容)を含み、研究遂行にあたっての基礎能力、大学院生(博士後期課程)としての適格性等を評価する。

(2) 社会人特別選抜

試験科目等		配点	備考
書面審査		—	修士論文又は研究論文の業績を通して、博士後期課程での研究遂行にあたっての研究能力を総合的に評価する（点数化しない）
学力 検査	外国語 1 科目	100 点	英語又は選択する地域の言語（ポルトガル語、スペイン語、中国語、韓国語、琉球語など）の問題を出題し、研究に必要な語学力を評価する。（上記言語から 1 科目を選択する） 大学が用意する辞書(書籍版)のみ使用してよい（試験後返却すること）。ただし、外国で受験する場合、別途対応する
小論文		100 点	選択する地域や研究分野に関する論述問題を出題し、課題把握の的確性、論拠の妥当性、論旨の一貫性等を評価する。
口述試験		100 点	個人面接とする。出願書類(修士論文又は研究論文及び研究計画書等の内容)を含み、研究遂行にあたっての基礎能力、大学院生(博士後期課程)としての適格性等を評価する。

(3) 外国人留学生特別選抜

試験科目等	配点	備考
書面審査	—	修士論文又は研究論文の業績及び日本語力調査書を通して、博士後期課程での研究遂行にあたっての研究能力等を総合的に評価する（点数化しない） ※原則として日本語能力試験 N1 程度
小論文	100 点	選択する地域や研究分野に関する論述問題を出題し、課題把握の確性、論拠の妥当性、論旨の一貫性等を評価する。 ※日本語で行う
口述試験	100 点	個人面接とする。出願書類(修士論文又は研究論文及び研究計画書等の内容)を含み、研究遂行にあたっての基礎能力、大学院生(博士後期課程)としての適格性等を評価する。 ※日本語で行う

7. 使用するオンラインツール及びオンライン環境整備

オンライン試験では、ツールとして「Microsoft Teams（以下、「Teams」という）」のビデオ通話機能を利用します。なお、オンライン環境を整備するためにかかる費用（機器、インターネット環境等）については、受験者の負担となります。

以下の準備を行ってください。

(1) インターネット通信環境

十分な通信速度を確保するため、光ファイバー回線などの高速、かつ有線のインターネット環境が理想的です。Wi-Fi（無線）やモバイル回線（携帯電話会社提供の回線）を使うこともできますが、通信速度は最低でも 8Mbps は必要で、20Mbps 以上あれば理想的です。

また、Teams では、音声・映像で 1 時間あたり 690～810MB の通信量が必要とされています。

(2) インターネットに接続されたパソコン等の準備

オンライン試験は、インターネットに接続されたパソコンを使用して受験してもらいます。パソコン（デスクトップあるいはノート型）、ウェブカメラ、ヘッドセットをご準備ください。

・ウェブカメラ

PC 内蔵カメラやウェブカメラで対応できます。

・ヘッドセット（ヘッドホン・マイク）

PC 内蔵のスピーカー、マイクは、音質やハウリングの問題が生じる恐れがあるため、ヘッドセットやイヤホンマイクの使用を推奨します。

(3) 利用可能なメールアドレスの準備

Teams の登録には、参加者本人が受信できるメールアドレスが必要です。メールアドレスをお持ちでない場合は、フリーメール（Gmail、Yahoo!メール等）を取得してください。

ドメイン指定受信をしている場合は、「@meio-u.ac.jp」及び「@mail.meio-u.ac.jp」並びに「@email.teams.microsoft.com」からのメールが受信できるようにあらかじめ設定してください。

出願書類の「入学志願票」の「現住所」欄にメールアドレスを必ず記入してください。

(4) Teams のダウンロードについて

試験日 1 週間前(下記(5)参照)までに、Teams をダウンロード(無料)、アカウントを取得し、Teams へログインの上、当ツールの機能等を確認してください。

Teams は、次のサイトからダウンロードできます。**アカウント取得する際は、必ず入学志願票に記入するメールアドレスを用いてください。**

なお、定期的にソフトウェアアップデートが実施されますので、試験日前日に teams を起動して、正常に起動するか確認してください。

<https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365/microsoft-teams/download-app>

(5) Teams からのチーム登録メールの受信及びチーム機能の確認

志願者からの出願書類を受理した後、受験票を志願者に送付する日を目処に（試験日の 1 週間程度前）、Teams のチーム機能により「名桜大学大学院国際文化研究科(D)入試」の名称で志願者個別の「チーム」を作成し、各志願者を当チームに登録します（志願者のメールアドレスを登録します）。登録後、Teams から志願者へ「チームに追加された」旨のメールが送信されますので、Teams へログインし事前確認してください。

[Teams からの受信メール(イメージ画像)]



(6) Teams 通信テスト

受験にあたっては、試験前に**通信テストを必須とします。**希望日時を入試・広報課に連絡の上、試験当日と同じ環境のもとで通信テストを実施してください。なお、追試験受験は、通信テストの有無を相談の上決定します。

1 期試験：令和 7(2025)年 10 月 17 日(金)までに実施すること。

2 期試験：令和 8(2026)年 1 月 30 日(金)までに実施すること。

8. 試験期日及び試験会場等

(1) 試験期日

試験区分	試験日	試験時間	試験科目等	摘要
1期試験	令和7(2025)年10月19日(日)	9:30 ~ 11:00	外国語	一般選抜及び社会人の受験者
	※追試験(詳細14ページ) 令和7(2025)年10月26日(日)	11:20 ~ 12:50	小論文	社会人及び外国人留学生受験者
		14:00 ~	口述試験	全 員
2期試験	令和8(2026)年2月1日(日)	9:30 ~ 11:00	外国語	一般選抜及び社会人の受験者
	※追試験(詳細14ページ) 令和8(2026)年2月8日(日)	11:20 ~ 12:50	小論文	社会人及び外国人留学生受験者
		14:00 ~	口述試験	全 員

※志願状況によっては、試験時間を繰り上げることがあります。

(2) 試験会場

名桜大学内（試験室は当日ご案内します）

〒905-8585 沖縄県名護市字為又 1220-1

名護バスターミナルからタクシー利用約7分

※受験生は9時までに試験会場に集合してください。

【オンラインでの受験者】

オンラインでの受験の場合は、試験中に第三者が立ち入らない静かな環境を受験者各自で用意してください。

※貸会議室や宿泊施設等の商業施設を利用することも可能ですが、利用の可否等については受験者自身で確認してください。施設借用にかかる費用は受験者の負担となります。

9. 試験当日の Teams 接続、出題・答案提出方法

オンライン受験者の試験当日の手順は次のとおりです。

(1) Teams への接続

試験当日、最初の試験科目（外国語もしくは小論文）開始時間の30分程度前にPC及びTeamsを起動してください。

外国語及び小論文については、開始時間10分前までにTeamsに接続してください。

口述試験については、受験票送付時に各志願者の「口述試験連絡票」を同封しますので、示された時間にTeamsに接続してください。

接続後は、試験監督の指示に従ってください。

(2) 外国語及び小論文試験出題方法及び解答方法

外国語及び小論文試験の各試験問題 (PDF ファイル) 及び解答用紙 (Word ファイル) は、Teams 上で送信・出題します。試験監督の指示に従って操作してください。

解答は、受信した解答用紙 (Word ファイル) にデータ入力してください。その際、各自で下書き用紙を準備し、使用することを認めます。

(3) 外国語及び小論文試験答案提出方法

各試験終了後、答案は、Teams 上でデータ提出します。試験監督の指示に従って操作してください。

10. 受験上の諸注意

【試験会場での受験者】

- (1) 試験当日は試験開始 10 分前までに入室してください。試験開始後 30 分を経過しても試験場への入室がない場合は、受験できません。
- (2) 受験票は必ず持参し、机の上に提示してください (忘れた場合は、監督者にその旨申し出てください)。
- (3) 筆記用具は鉛筆 (キャップ含む)、ペン、消しゴム及び鉛筆削りとします。なお、試験場に時計を持ち込む場合は、時計機能だけのものとします。
- (4) 携帯電話・スマートフォン等の使用を禁止し、時計機能としても使用を認めません (試験前には必ず電源を切ること)。
- (5) 試験中に質問がある場合は、試験監督に知らせ、指示に従ってください。
- (6) 上記(1)の受験者入室終了時刻から試験終了までは、試験室から退室できません。体調不良、トイレ等により、やむを得ず退室を希望する場合には、試験監督に知らせ、その指示に従ってください。
- (7) 答案は、解答の如何にかかわらず必ず提出してください。
- (8) 昼食は各自で準備してください。

【オンラインでの受験者】

- (1) 受験者から試験前の連絡なく、最初の試験開始時間から 30 分経過してもなおオンライン接続がない場合は、受験を認めません。また、口述試験における Teams 接続時間から 5 分経過してもなおオンライン接続がない場合は、受験を認めません。(「11. 通信トラブル等の対応」参照)
- (2) 受験票は必ず持参すること。各試験開始前にウェブカメラにより確認します。試験中は、机の上に置いてください (忘れた場合は、監督者にその旨申し出てください)。
- (3) 外国語及び小論文における下書き用の筆記用具は鉛筆、ペン、消しゴム及び鉛筆削りとします。なお、試験場に時計を持ち込む場合は、計時機能だけのものとします。
- (4) オンライン通信トラブル時を除き、携帯電話・スマートフォン等の使用を禁止し、時計機能としても使用を認めません。ただし、オンライン通信トラブルの発生時に備え、電源を入れておくこととしますが、大学以外からの電話・メール等の着信があっても応答しないでください。試験開始前にウェブカメラにより確認します。試験中は、机の上に置いてください。(「11. 通信トラブル等の対応」参照)。
- (5) 試験中に質問がある場合は、試験監督に知らせ、指示に従ってください。
- (6) オンライン通信接続開始時刻から試験終了までは、受験している場所(部屋等)から退室できません。体調不良、トイレ等により、やむを得ず退席を希望する場合には、試験監督に知らせ、その指示に従ってください。
- (7) 答案は、解答の如何にかかわらず必ず提出してください。

- (8) 不正行為が確認された場合は、受験は無効となります。特に、オンライン試験中においては、意図的にオンライン通信を切断する等、カンニング等の不正の疑いがある行為が認められた場合、試験監督が確認することがあります。
- (9) 試験に関する諸注意事項等の詳細は、受験票送付時に通知します。

11. 通信トラブル等の対応

オンライン試験において、通信トラブル等が発生した場合は、次のように対応します。

〈試験開始前〉

受験者から名桜大学 教務部 入試・広報課（以下、「入試・広報課」）に電話連絡してください。

TEL: 0980-51-1056

〈外国語及び小論文試験中〉

入試・広報課から電話連絡しますので、落ち着いてお待ちください。

通信トラブル等が即座に回復した場合は、試験再開します。中断時間の措置、答案の提出等、試験監督の指示に従ってください。

即座に回復しない場合は、当該試験科目については追試験対象者とし、試験監督の指示に従ってください。

〈口述試験中〉

入試・広報課から電話連絡しますので、落ち着いてお待ちください。

通信トラブル等が即座に回復した場合は、試験再開します。中断時間の措置については、監督者の指示に従ってください。

即座に回復しない場合は、当日予定している最後の受験者の後に繰り下げて、再試験を実施しますので、試験監督の指示に従ってください。

12. 再試験

再試験は、オンラインによる口述試験実施時の通信トラブル等があった場合の配慮として実施します。原則として、試験監督が必要と判断した場合に再試験の対象とします。

(1) 再試験の対象者

次のア～エを再試験の対象者とします。

ア：試験前の通信チェックでトラブルが解決できなかった場合

イ：オンラインによる口述試験の途中で通信量不足等により通信速度が低下した、あるいは通信が切断した場合

ウ：オンラインによる口述試験の途中で音声・映像の途切れや切断があり、試験に支障をきたしたと試験監督が判断した場合

エ：その他、試験監督・受験者双方で確認し、再試験の対象と試験監督が判断した場合

(2) 再試験の実施方法

次のア及びイのとおり実施します。

ア：再試験は原則として同日に行います。当該受験者の試験時間を変更（繰り下げ）して実施することを基本とし、再試験対象者数等の状況によっては別日を設けることがあります。

イ：再試験の再開は、中断した時点から再開することとし、時間については、中断するまでに要した時間を含め、口述試験時間の範囲内とする。

- (3) 再試験の再試験は原則として実施しません。再試験で通信トラブル等が発生した場合は、入試・広報課から電話連絡しますので、指示に従ってください。

13. 追試験

追試験は、オンラインによる外国語及び小論文試験実施時の通信トラブル等があった場合の配慮として実施します。原則として、試験監督が必要と判断した場合に追試験の対象とします。

また、疾病等により受験予定だった試験を受験できなかった場合の配慮として実施します。原則として、受験者からの申請及び証明できる書類（診断書等）の提出により追試験の対象とします。

(1) 追試験の対象者

- ① オンラインによる外国語及び小論文試験実施時の通信トラブル等があった場合

次のア～エを追試験の対象者とします。

ア：試験前の通信チェックでトラブルが解決できなかった場合

イ：オンラインによる外国語及び小論文試験の途中で通信量不足等により通信速度が低下した、あるいは通信が切断した場合

ウ：オンラインによる外国語及び小論文試験の途中で音声・映像の途切れや切断があり、試験に支障をきたしたと試験監督が判断した場合

エ：その他、試験監督・受験者双方で確認し、追試験の対象と試験監督が判断した場合

- ② 疾病等により受験予定だった試験を受験できなかった場合

次のア及びイを追試験の対象者とします。

ア：疾病（インフルエンザ・ノロウイルス・新型コロナウイルス・風邪等を含む）・負傷により試験を受験できない者で、それを証明する医師の診断書の提出があった場合

イ：その他やむを得ない事由（両親等の危篤・死亡、自宅の火災、自然災害等による通信トラブル、保健所等から健康観察や外出自粛を要請されている等）により試験を受験できない者

(2) 追試験の試験期日

1 期試験：令和 7(2025)年 10 月 26 日(日)

2 期試験：令和 8(2026)年 2 月 8 日(日)

試験時間等は対象者確定後、連絡します

(3) 試験内容

本試験とは異なる試験問題を用意し実施します。

(4) 追試験の受験申請方法等

追試験対象者①については、申請不要です。

追試験対象者②については、16 ページの別表「追試験受験申請の受付及び許可手続」のとおり申請してください。

- (5) 追試験の追試験は原則として実施しません。追試験時に通信トラブルがあった場合は、入試・広報課から電話連絡しますので、指示に従ってください。

14. 合格発表

合否結果の通知を大学ウェブサイト上にて行います。合格者は、入学手続システムで手続を行っていただきます。なお、電話等による合否結果の問い合わせには一切応じません。

1 期試験：令和 7(2025)年 11 月 1 日(土) 15:00

2 期試験：令和 8(2026)年 2 月 20 日(金) 15:00

15. 入学手続期間

1 期試験：令和 7(2025)年 11 月 1 日(土)～11 月 10 日(月)

2 期試験：令和 8(2026)年 2 月 20 日(金)～ 2 月 27 日(金)

16. 社会人学生の履修の方法

(1) 大学院設置基準第 14 条の特例について

入学後も社会人として在職のまま就学する者に対し、社会人として職務の遂行と本研究科での履修が両立するよう大学院設置基準第 14 条の特例（大学院の課程においては、教育上特例の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる）を実施し、授業科目の夜間、土曜日・日曜日の開講により就学上の便宜を図ります。また、研究指導は、昼間に加えて夜間、土曜日・日曜日、夏季・冬季・春季の休業期間等に行います。履修計画については、指導教員の指導のもとに作成することになります。

(2) 長期履修制度について

「職業を有している等」の事情のある学生を対象として、標準の修業年限 3 年を超えて一定の期間にわたり、計画的に教育課程を履修して修了することができる制度があります。この制度による授業料は、標準の修業年限 3 年間の総額を計画的に履修することを認められた一定期間の年数で分割して納めることになります。

長期履修期間は標準修業年限に 3 年を加えた年数を超えることはできません。長期履修制度を利用したい学生は、入学後 1 年以内に申請することになります。

出願に関する問い合わせ先

名桜大学 教務部 入試・広報課

〒905-8585 沖縄県名護市字為又 1220-1

T E L : 0980-51-1056

F A X : 0980-54-2429

E-mail : nyushisodan@meio-u.ac.jp

別表 「追試験受験申請の受付及び許可手続」 ※対象：「②疾病等により受験予定だった試験を受験できなかった場合」の該当者

申請受付時間	<p>・ 本試験前日 9：00 ～ 17：00</p> <p>・ 試験日当日 8：30 ～ 17：00</p>	
受験者の申請方法	<p>受験者は、追試験受験を申請する場合は、入試・広報課に追試験受験申請する旨を電話で連絡します。</p>	
	<p>A：申請受付時間内に本人又は代理人が入試・広報課に大学発行の「受験票」（注1）と「診断書（治療期間が明記されたもの）」（注2）もしくは「申請事由を証明できる書類（注3）」を持参し、「追試験受験申請書」により申請してください。</p> <p>※持参する場合は、事前にお問い合わせください。</p>	<p>B：申請受付時間内に本人又は代理人が入試・広報課に来られない場合は、申請受付時間内に疾病・負傷の状況、その他やむを得ない事由等を電話連絡し、申請手続を確認してください。</p>
申請事由の審査	<p>【申請方法Aの場合】</p> <p>「診断書（治療期間が明記されたもの）」（注2）もしくは「申請事由を証明できる書類（注3）」により審査します。</p>	<p>【申請方法Bの場合】</p> <p>大学側で、受験者本人の氏名等受験票の記載事項及び申請事由等を電話で聴取、「追試験受験申請の確認メモ」に記入し、直ちに入学志願者名簿等により、受験者であることを確認した後、本人又は代理人に受診状況及び治療期間、その他事由の状況を確認し、審査します。</p> <p>※「診断書（治療期間が明記されたもの）」（注2）もしくは「申請事由を証明できる書類（注3）」の提出を求める（下記のとおり）。</p> <p>この場合、申請事由等は「追試験受験申請の確認メモ」に基づくため、「追試験受験申請書」の提出は必要ありません。</p>
受験許可単位	<p>外国語、小論文、口述試験</p>	
追試験受験者の登録及び受験許可書の交付	<p>【申請方法A の場合】</p> <p>審査結果に基づき、「追試験受験許可書」等を本人又は代理人に交付します。</p>	<p>【申請方法B の場合】</p> <p>本人又は代理人が「受験票」と「診断書（治療期間が明記されたもの）」、もしくは「申請事由を証明できる書類（注3）」を当該試験日翌平日の正午までに、次のア、イのいずれかの方法で入試・広報課に提出した後、審査結果に基づき、「追試験受験許可書」等を交付します。（期日までの提出が困難な場合はご相談ください）</p> <p>ア：FAX送信 イ：撮影画像を電子メールで送信</p> <p>なお、これらの書類は、後日原本等を提出（持参/郵送）することを原則とします。</p>

（注1）「受験票」は本学でコピーした後、本人又は代理人に返却します。

（注2）診断書の治療期間が追試験実施日にわたっている場合には、本人又は代理人に医師の同意があることを確認した上で追試験の受験を許可します。

（注3）申請事由を証明する書類が発行されない、時間を要する等の場合、ご相談ください。

学費等納入金

合格者は入学手続システムで手続を行っていただきます。入学手続期間内に入学手続と学費等の納入を行ってください。

1. 学費等納入金

国際文化研究科			国際地域文化専攻（博士後期課程）	
			地域内	地域外
学 費	入学金		125,000 円	250,000 円
	授業料	前学期	267,900 円	267,900 円
		後学期	267,900 円	267,900 円
諸経費	後援会費	入学手続時	30,000 円	30,000 円
	学生教育研究・ 災害傷害保険	入学手続時	2,600 円	2,600 円
	学研災付帯 賠償責任保険	入学手続時	1,020 円	1,020 円
合 計		初年度納入総額	694,420 円	819,420 円
初年度納入総額内訳		入学手続時納入金	426,520 円	551,520 円
		後学期納入金	267,900 円	267,900 円

※諸経費は、入学手続時に3年間分を納入します。

※学研災付帯賠償責任保険については、希望者のみ必要に応じ随時加入できます。

2. 地域内・地域外の入学金について

入学金については、志願票に記載されている事項に基づき、以下のとおり取り扱うこととなります。

(1)「地域内」とは以下の者のことを指し、入学金が「125,000 円」となります。

- ① 入学する者の卒業した出身高等学校が沖縄県北部12市町村に所在していること。
- ② 令和7(2025)年3月31日時点で既に1年以上継続して沖縄県北部12市町村※に住所を有し、居住していること。
- ③ 保護者、配偶者又は一親等の親族の住所が令和7(2025)年3月31日時点で既に1年以上継続して沖縄県北部12市町村に住所を有し、居住していること。

※<沖縄県北部12市町村>

沖縄県の名護市、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、本部町、恩納村、宜野座村、金武町、伊江村、伊平屋村、伊是名村のことを指します。

(2)上記①～③以外の者は、「地域外」となり、入学金が「250,000 円」となります。

(3)上記の(1)に該当する場合は、入学手続時に以下のものを提出していただきます。

入学金に変更が生じた場合は、入学金の追加納入請求又は入学金の一部返還の措置を取ります。

入学金 適用区分	摘要	入学金確定に係る書類 (入学手続き時に提出)	備考
地域内①	入学する者の卒業した出身高等学校が沖縄県北部12市町村に所在していること。	【本学以外の大学卒業 者】 卒業した高等学校の卒業 証書の写しを提出	■本学卒業者は提出する書類 はありません。
地域内②	令和7(2025)年3月31日時点で既に1年以上継続して沖縄県北部12市町村に住所を有し、居住していること。	住民票抄本	■入学する者が1年以上継続 して在住していることを確認 するため左記の書類を提出し てください。その他の情報(本 籍、住民票コード、マイナンバ ー等)は必要ありません。
地域内③	保護者、配偶者又は一親等の親族の住所が令和7(2025)年3月31日時点で既に1年以上継続して沖縄県北部12市町村に住所を有し、居住していること。	【ア・イのいずれかを提出】 ア：住民票謄本 イ：住民票抄本と戸籍謄本	■保護者、配偶者又は一親等 の親族と同一世帯を成してい る場合は、続柄を確認するた め、 <u>左記ア</u> の書類を提出して ください。 ■保護者、配偶者又は一親等 の親族が1年以上継続して在 住していること、続柄を確認 するため、 <u>左記イ</u> の書類を提 出してください。なお、その他 の情報(本籍、住民票コード、 マイナンバー等)は必要あり ません。
地域外	上記に該当しない者	提出の必要はありません。	

(4)本学卒業生の入学金について

本学卒業生の入学金は、大学院学則第44条(入学金及び授業料等)の規定に基づき、「地域内」の半額とします。

3. 外国人留学生の入学金及び授業料について

外国人留学生の入学金及び授業料は、本学の規程に基づき以下のとおり取り扱うこととなります。

(1)外国人留学生の入学金は、地域外の半額となります。

(2)外国人留学生は入学年度において、一律に授業料の半額を減免することができます。授業料減免は入学年次の「前学期」から適用されます。

4. 学費等納入金の納入方法

学費等納入金は、入学手続きシステムにて期限までに納入してください。

5. 学費等納入金の返還について

学費等納入金を納入した者が、令和8(2026)年3月19日(木)までに本学への入学を辞退

した場合は、入学金を除く学費及び諸経費を返還します。学費返還手続については、合格通知書と同封の入学手続要項に綴じられた「入学辞退届」と「学費返還願」の提出が必要となります。

6. 入学後の奨学金制度その他について

経済的な負担軽減を図るため、大学院生を対象に奨学金制度や研究支援補助金制度を整備しています。

授業科目の内容等

国際文化研究科 国際地域文化専攻（博士後期課程）

【 共通科目 】

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
国際地域文化総合演習Ⅰ	2	嘉納 英明 高嶺 司 小番 達 小嶋 洋輔 坪井 祐司 照屋 理 屋良健一郎 Meghan- Kuckelman	本授業は、研究指導教員及び研究指導補助教員全員が参加し、学生の発表に対して異なる研究分野からの視点を導入することで学生に多様な視点から自らの課題を検討する機会を与え、環太平洋を中心とする地域文化について理解を深めることを目的とする。同時に博士後期課程における研究レベルへの導入的な役割も果たす。すなわち、学生は自らの課題について発表するとともに、異なる研究分野の専門家からのコメントや質問に答えながら、自らの研究の方向性を確認しテーマを深化することになる。教員は、総合演習に参加し、学生を中心とした討論を喚起することで、学生が自らの課題を総合的に把握することを支援する。
国際地域文化総合演習Ⅱ	2	嘉納 英明 高嶺 司 小番 達 小嶋 洋輔 坪井 祐司 照屋 理 屋良健一郎 Meghan- Kuckelman	本授業は、国際地域文化総合演習Ⅰと同様、研究指導教員及び研究指導補助教員全員が参加し、学生の発表に対して異なる研究分野からの視点を導入することで学生に多様な視点から自らの課題を検討する機会を与え、環太平洋を中心とする地域文化について理解を深めることを目的とする。同時に博士後期課程2年次学生が、1年の研究期間を経た後で自らの課題について発表するとともに、異なる研究分野の専門家からのコメントや質問に答えながら、自らの研究テーマのさらなる深化を目指すものである。教員は、総合演習に参加し、学生を中心とした討論を喚起することで、学生が自らの課題を総合的に把握することを支援する。

【 専門科目 】

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
現代沖縄教育特論	2	嘉納 英明	<p>日本国内の中でも独特の歴史や文化を育んできた沖縄は、教育の世界でもユニークな歩みを刻み込んできた。特に、米国占領下の27年間（1945～1972年）は、米軍政による沖縄文教・外国語学校、琉球大学という高等教育機関の設立、日本本土では実現しなかった教育税制度の創設、公選制教育委員会制度から推薦制・任命制教育委員会制度への移行、地域の集落公民館における就学前教育（幼稚園）から公立幼稚園への制度化等の史的展開をみせた。これらは沖縄の住民の教育保障、教育自治・民主化運動とも連動したものである。各事象に関する一次資料と関係論考の分析を通して、個別具体的に事象のもつ意味を明らかにしながら、現代の沖縄・日本の教育の在り方について考察を深める。</p>
アジア太平洋国際関係特論	2	高嶺 司	<p>本特論は、急速な経済成長と科学技術力の進歩を基にグローバル社会における存在感を飛躍的に高めているアジア太平洋地域の国際関係を考察する。具体的には、日本、アメリカ、ロシア、カナダ、中国、韓国、台湾、北朝鮮、オーストラリア、ニュージーランド及びASEAN諸国などによって形成されるダイナミックかつ複雑なアジア太平洋地域の国際関係について、批判的に分析する。特に、現在この地域において顕著な諸問題（外交、安全保障、通商、人権、民主化、環境破壊、貧困、開発、エネルギー、テロリズム等）の詳細なケーススタディーを通して、その背景と要因を的確に把握するための考察を重ねる。さらに、これらアジア太平洋地域の諸問題を、国際関係理論を応用して科学的な分析を試みることにより、論理的な解決方法を検討することを学ぶ。最終的に事象の持つ意味を明らかにしながら、現代の沖縄・日本の教育の在り方について考察を深める。</p>
日本古典文学特論	2	小番 達	<p>本講義では『平家物語』の成立をめぐる問題について考える。作品の成立を考えるには、いわゆる5W1Hの各要素が対象となるが、ここでは異本本文の創作・編集動機（なぜ）、そして成立過程（どのように）の要素を基軸に考えてゆく。『平家物語』をはじめとする軍記文学にあっては、膨大な異本（諸本）を有することがその特徴の一つになっている。それらの異本を総体的に捉えることは難しいため、一異本をキーテキストとして考察対象に定め、そのテキストをめぐって、先行する『平家物語』の他の異本本文や他の軍記文学本文、さらに外部文献—先行する文学作品、歴史資料（記録・史書等）、思想関連資料（経典・寺社縁起等）等々の直接的あるいは間接的な受容の様態を具体的に解き明かしてゆく。</p>

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
日本近代文学特論	2	小嶋 洋輔	日本近現代文学、とくに第二次世界大戦後の文学における「代表作」(本講義では短篇＝芥川賞受賞作中心)を取り上げ、その「研究方法」について学ぶ。とくに、作品が生成された背景を知る「方法」及び、作品の一文字一文字を読む「方法」を知る。小説作品とは書かれた同時代社会の問題が色濃く表れているものであり、社会制度の変遷を小説から読み解くこともその目的とする。
東南アジア地域文化特論	2	坪井 祐司	人文・社会科学の研究の方法論の多くは、欧米社会の分析を前提に発展してきたものである。一方で、アジアには寒帯から熱帯までさまざまな地域があり、社会のあり方は必ずしも一様ではない。授業では、アジアで唯一の熱帯地域である東南アジアの社会をさまざまな角度から検討することで、既存の学問の方法論そのものについて再検討する。地域横断的な視野をもって書かれた論文をいくつか選んでテーマを設定し、それをもとに議論を行う。
琉球文学特論	2	照屋 理	琉球とは、かつて琉球国があった時代とその地域、琉球文学とは、基本的に琉球国時代に琉球国内で生まれ、育まれた文学を意味する。具体的に挙げると、オモロ(『おもろさうし』)に代表される呪術文学、奄美・沖縄・宮古・八重山地域で歌い継がれている古謡や琉歌に代表される叙事・抒情文学、そして組踊に代表される劇文学等である。 本講義では、それらの文学領域の中でも、特に『おもろさうし』以外の呪術文学(奄美のタハブエ、ナガレ歌、沖縄のミセセル、オタカベ、宮古のカンフツ、タービ、八重山のカンフツ、ニガイフツ等)および叙事・抒情文学、そして劇文学に焦点を当てて追究する。なお、受講生には主体性を求める。
琉球歴史学特論	2	屋良 健一郎	この講義では前近代の琉球の歴史を、史料を読み解きながら学んでいく。特に日本との外交や文化交流に関わる史料を読むことで、琉球と日本・薩摩との関係がどのような歴史をたどったのかを考察することとする。琉球の歴史を知る上で重要な薩摩の歴史についても積極的に扱う。
20世紀アメリカ文学特論	2	Meghan Kuckelman	This course will focus broadly on 20th Century American Modernism, defined very loosely as 1910–1945. Poetry and fiction will be considered alongside theoretical texts from both the early and later century. In addition to the “high” Modernist writing of Eliot, Williams, and Pound, special attention will be paid to the Harlem Renaissance and the avant-garde texts of Gertrude Stein and Djuna Barnes. The value of reading, studying, and teaching such texts will also be considered throughout, through the lens of Martha Nussbaum’s “The Narrative Imagination.”

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
中国琉球関係史特論	2	非常勤講師	環東シナ海における地域間ネットワークといった広域的な問題を意識しながら、琉球の歴史的特質をさぐる。前近代的な課題を授業の対象とする。中琉関係史研究を通して地域研究の多様性、地域研究の動向を把握し、地域研究の課題と研究方法を探る。
東アジア地域文化特論	2	非常勤講師	本講義は、東アジアにおける国家・政治・文化に関する理解を深めるため、各国・地域が経験してきた国民国家形成および国民国家史の創出に関する比較・検討を行う。本講義は主に中華圏の社会と地域を検討対象とするが、特に台湾や尖閣諸島といった“周縁”的な地域を沖縄との比較の視座から分析することで、周辺からの地域研究とその手法について体得できるようにする。
琉球・沖縄文化特論	2	非常勤講師	琉球語を母語とする奄美・沖縄・宮古・八重山地域は“琉球文化圏”と呼ばれ、歴史的に、日本や中国、東南アジアなど周辺諸国との交流によって、個性的な文化を育んできた。例えば、この地域には、ニライカナイ（海の彼方の万物の淵源の地）という海上他界の観念があるが、同時に、オボツカグラなどの天上他界観もある。さらには地下他界観を有する地域もあり、現実的にはこれらが重層しているといえる。これらの他界観を元に御嶽信仰と呼ばれる固有信仰が発達しているわけであるが、これらの他界観と固有信仰・民俗文化がどのように展開しているかを見定めることは、琉球・沖縄文化と日本および周辺地域の文化との比較研究のために不可欠なことである。本講座では、これら琉球文化圏で創造・享受されてきた文学（首里王府編『おもろさうし』〈1531～1623〉など）を素材として、この地域の人々が有する他界観・神観念などの民俗文化と想念世界について考えていく。
南島民俗文化特論	2	非常勤講師	南島、主に琉球諸島の民俗文化について、まじない、星と風、信仰習俗などを主たるテーマとして取り上げる。南島特有の精神風土に根ざしたまじない習俗について、文献資料の発掘とフィールドワークの成果を活かし、中国・日本との比較も視野に入れながら考察する。また南島の地理的環境がもたらす天文・自然と人々の暮らしとの関係性について、さらに中国・日本などの外来文化が受容され独自の展開を見せる民俗文化についても考察する。

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
中南米地域文化特論	2	非常勤講師	<p>ボーダーレスともいわれる現代の国際移動は、それぞれ意図された目的とは別に、国境を越えた文化情報の移動をもたらす。そして思わぬ文化的影響が生じることがある。本特論では、ヒトの移動によって生じる中南米地域のホスト社会における異文化接触について考察する。その際、異文化接触による現象である文化変容が、一つの文化の内部で起こる文化の変化であるのに対して、文化触変は外来の文化要素が受容されたときに起こる文化の変化であることに注目する。そして、このような文化のシステムにどのような変動（文化喪失、文化挿入、同化、異化）が起こるかの事例研究を中心に考察する。</p>
英語教育特論	2	非常勤講師	<p>アジアやヨーロッパ、北米の地域を中心に外国語教育について教育制度、教員養成、教科書、カリキュラム等を比較する。学術論文や、専門書、教科書、公文書のレビューとクラス討議により、諸地域の外国語教育の歴史的かつ文化的な背景から現状、そして今後の外国語教育の展望を理解し、グローバル化の進展に対応するために日本の外国語教育の在り方を探る。</p> <p>特に本講義では英語教育を中心に検証を行う。小学校英語教育の各国・地域の歴史や現状のみならず、根拠となっている臨界期仮説について理解し、小学校英語教育の必要性について議論を深める。さらに、各国・地域の外国語教員養成制度や教育政策を比較する事により、外国語教育の背景となっている歴史的な背景や文化的な背景を理解する。また、各国・地域の教科書を比較する事により特にコミュニケーション能力の育成に対する相違について認識を深める。加えて、TOEFL iBTなどにより英語能力を各国・地域間で比較しながら、英語が母語話者だけの言語ではない、新たな英語言語モデルについて理解を深める。</p> <p>新たな視点としては、多言語主義に加えて新たな外国語教育の潮流である複合言語主義（CEFR）について理解し、特定の地域のみならず全世界的な規模で外国語教育を理解し、今後の日本における外国語教育の方向性を提案する事を課題として与える。</p>

【 研究指導科目 】

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
特別演習Ⅰ	2	嘉納 英明	学校と地域の教育に関する博士論文のテーマに即した研究指導を行う。 研究分野、テーマに関する先行研究や学会の研究動向に関する報告及び議論を通して、学生が主体的に研究テーマを設定し、その研究の意義を明らかにし、研究領域や研究方法を確定する。
特別演習Ⅰ	2	高嶺 司	アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文執筆に向けて、研究テーマを設定し、研究の目的、独創性、学術的貢献、及び具体的な研究方法やタイムラインについて検討する。
特別演習Ⅰ	2	小番 達	日本中世文学に関する博士論文のテーマに即した研究指導を行う。テーマに関する先行研究を把握した上で問題点を抽出し、研究テーマの設定、研究方法等について具体的に検討する。
特別演習Ⅰ	2	小嶋 洋輔	日本近代文学に関する博士論文のテーマに即した研究指導を行う。テーマ設定の妥当性、研究方法の検討、先行研究の整理などについて検討する。博士論文のための作品・事例の分析研究の基本的な方法について検討する。
特別演習Ⅰ	2	坪井 祐司	博士論文の作成に向けた研究指導を行う。教員との議論を通じて、研究テーマを設定する。先行研究の探索の方法を習得し、収集を進める。そのうえで、収集した先行研究の読解を通じて研究史を把握し、自らの研究の意義を明確にする。
特別演習Ⅱ	2	嘉納 英明	学校と地域の教育に関する博士論文のテーマに即した研究指導を行う。 研究テーマを決定するために、国内外の先行研究と現在の研究動向を理解するために文献探索を行う。あわせて、研究テーマの妥当性や研究の意義を検証する。特に、序章の中の「研究史」の作成について集中的に指導する。
特別演習Ⅱ	2	高嶺 司	アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文執筆に向けて、先行研究の批判的検討と整理を行い、研究の中心となる理論的（分析）アプローチの構築を試みる。
特別演習Ⅱ	2	小番 達	日本中世文学に関する研究テーマに即して先行研究の検討を引き続き行うとともに関連する他の文学作品や資料等を精読し、作品研究の深化を図る。
特別演習Ⅱ	2	小嶋 洋輔	日本近代文学に関する博士論文のテーマに即した研究指導を行う。特別演習Ⅰに引き続いて、先行研究の検討が主たる作業となる。また研究テーマ周辺についても幅広い目配りを行えるようにする。
特別演習Ⅱ	2	坪井 祐司	博士論文の作成に向けた研究指導を行う。論文テーマに関する研究史を整理するとともに、先行研究をふまえて自らの研究の方法論を決定する。そのうえで、教員との議論を通じて、論文の構成に関して構想を固め、作成のスケジュールを決定する。

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
特別演習Ⅲ	2	嘉納 英明	学校と地域の教育に関する博士論文のテーマに即した研究指導を行う。 学校と地域の教育に関する博士論文執筆に向けて、研究に必要な1次資料・2次資料の文献探索方法を獲得する。
特別演習Ⅲ	2	高嶺 司	アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文執筆に向けて、論文全体の構成、フィールド調査やインタビュー調査の検討、収集文献・資料・データの分析と整理を行う。
特別演習Ⅲ	2	小番 達	日本中世文学に関する博士論文の全体構想を検討する。作品研究の深化を図り、先行研究の検証や関連作品・資(史)料の読解も継続する。博士論文の構成に従って執筆指導を行う。
特別演習Ⅲ	2	小嶋 洋輔	日本近代文学に関する博士論文のテーマに即した研究指導を行う。そのうえで対象作品の範囲の拡大を目指す。研究テーマ周辺の作品についても幅広い目配りを行えるようにする。先行研究の探索と検討を継続して行う。なお、学位論文の構想に基づき各章・各節の具体的執筆指導を行う。
特別演習Ⅲ	2	坪井 祐司	博士論文の作成に向けた研究指導を行う。教員との議論を通じて研究計画に基づき、論文作成に必要な資料について検討する。そのうえで、必要な資料や文献の所在等について情報を探索し、収集を進めていく。収集を行った資料は、順次読解を進める。
特別演習Ⅳ	2	嘉納 英明	学校と地域の教育に関する博士論文の執筆に向けて、研究史の推敲、国内外で収集した資料の分析・検討などを踏まえ、学位論文の構想を検証する。
特別演習Ⅳ	2	高嶺 司	アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文の各章の執筆を行い、執筆内容のレビューをもとに論文全体の構成の再検討と修正を行う。
特別演習Ⅳ	2	小番 達	日本中世文学に関する博士論文の構成に従って各章の執筆を行い、その内容について検討する。論文全体の構想を再検討して構成の充実を図る。
特別演習Ⅳ	2	小嶋 洋輔	日本近代文学に関する博士論文を支える作品・事例の正確な分析ができるように指導するとともに、博士論文の構想に基づき、各章・各節の執筆が進むよう具体的な指導を行う。
特別演習Ⅳ	2	坪井 祐司	博士論文の作成に向けた研究指導を行う。博士論文のための資料の読解、分析を進める。それらの内容を踏まえて、博士論文の構想を再度確認する。構想に基づき、教員との議論を通じて内容を検討しながら、論文の序論の執筆を進めていく。
特別演習Ⅴ	2	嘉納 英明	学校と地域の教育に関する学位論文の各論の執筆を検討し、推敲を繰り返しながら完成を目指す。

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
特別演習Ⅴ	2	高嶺 司	アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文の第2草稿の執筆を行い、執筆内容のレビューをもとに論文全体の理論的アプローチ、論旨の展開、証拠・引用文献の提示に関する妥当性の確認と修正を行う。
特別演習Ⅴ	2	小番 達	日本中世文学に関する博士論文の執筆内容の検討・指導を行い、完成を目指す。
特別演習Ⅴ	2	小嶋 洋輔	日本近代文学に関する博士論文の完成を目指して、論文指導を中心に授業を進める。特に、論拠となる資料の的確性や論文の実証性の確認を行う。さらに論理構成などに注意して論文執筆がなされるよう指導を行う。
特別演習Ⅴ	2	坪井 祐司	博士論文の作成に向けた研究指導を行う。構想に基づき、博士論文の各章の執筆を進める。草稿をもとに、教員との議論を行い、内容の修正・改善を進めていく。
特別演習Ⅵ	2	嘉納 英明	学校と地域の教育に関する学位論文を検討と修正を繰り返しながらまとめていく。
特別演習Ⅵ	2	高嶺 司	アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文の最終稿を継続して執筆するとともに、論文全体のロジック（構成）、独創性、学術的意義についての最終確認や序論、結論、脚注、参考文献のチェックを行い、書式統一や文章の細部点検と修正を経て博士論文を完成させ提出する。
特別演習Ⅵ	2	小番 達	日本中世文学に関する博士論文を完成させる。各章の実証性・整合性・妥当性の再検討と論文全体が体系的に構成されているかの点検を行う。
特別演習Ⅵ	2	小嶋 洋輔	日本近代文学に関する学位論文の執筆・補訂と指導を行う。
特別演習Ⅵ	2	坪井 祐司	博士論文の作成に向けた研究指導を行う。教員との議論を通じて、博士論文の内容の検討と修正を繰り返し、論文の完成へとつなげる。そして、博士論文の口頭試問の準備を進める。

研究指導（博士論文指導）教員一覧

異動等により、変更になる場合があります。

No	研究指導分野	研究指導教員
1	学校と地域の教育に関する研究	教授 かのう ひであき 嘉納 英明
2	アジア太平洋地域の国際関係や政治 外交に関する研究	教授 たかみね つかさ 高嶺 司
3	日本古典文学に関する研究	教授 こつがい とおる 小番 達
4	日本近現代文学研究。とくに戦後、 高度経済成長期の文学研究	教授 こじま ようすけ 小嶋 洋輔
5	東南アジア地域研究およびアジアの 歴史に関する研究	教授 つぼい ゆうじ 坪井 祐司

令和 8(2026)年度 名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）
学生募集要項

<発行>

令和 7(2025)年 7 月 14 日

名桜大学 教務部 入試・広報課

〒905-8585 沖縄県名護市字為又 1220-1

TEL 0980-51-1056 FAX 0980-54-2429
